「準備された心」の醸成を願う

（一社）日本医薬品卸売業連合会会長
鈴木　賢

２日間にわたるセミナーへの参加、誠にありがとうございます。今回のセミナーのテーマは、「流通改革第三ラウンド―消費増税・薬価改定を控えて―」です。医薬品卸業界にとって重要な課題であり、また、大切な時期であると思っています。

私はかねてから、「流通改善は流通改革だ」と主張してきました。妥結率などの数字は大切ですが、最も大切なのは、私たちが医薬品の価格形成の責任を持っていることを十分に自覚し、その上で流通改革に取り組むことだと思っています。

公的医療保険制度で採用されている薬価基準制度は、市場実勢価主義を原則としています。ゆえに、医薬品の価値に見合った適切な価格形成が不可欠です。公的医療保険制度のもとで医薬品取引ビジネスにかかわる以上、その制度、仕組みを踏まえた商習慣のあり方を目指すことは、当然の責任と考えなければならないと思っています。

６月27日に流通改善懇談会が開かれました。卸連合会からは、松谷さん、村井さん、長谷川さんが出席しました。その冒頭、原医政局長から、「現状は妥結率が低く、薬価基準制度の根本が成り立たない憂慮すべき事態である。これでは現行制度の運用が維持できない」と指摘されました。このことを真摯に受け止めなければならないと思っています。私たち医薬品卸を含めて、医薬品取引にかかわる関係者の意識改革があってはじめて、制度に見合わない商習慣を変え、あるべき医薬品流通の姿に近づいていけると考えています。

２日目の吉村副会長、内藤日薬連会長、三村先生の講演およびパネルディスカッションでは、「なぜ流通改革か」ということを深掘りしていただけるものと思っています。

また、来年４月には消費税が８％に引き上げられる予定です。医薬品について、損税が発生しているという誤解が流布されています。医療機関や薬局の保険償還価格である薬価には消費税相当額が加算されていますので、損税の発生する余地はありません。誤解を払拭する分かりやすい広報を、いま政府与党に申し入れています。しかし、私たちも理解し、また得意先にきちんと説明して納得していただかなければならないと思っています。２日目に、日本医師会の今村副会長の話が伺えます。日本医師会はパンフレット等で、薬について損税は発生していないという明確な理解を示されています。十分に耳を傾けたいと思っています。

本日の基調講演は、厚生労働省の鎌田課長にお願いしています。行政の立場から、医薬品流通に関する見解を直接お聞きする良い機会だと思います。

最後に、近代細菌学の開祖といわれているルイ・パスツールの言葉を紹介したいと思います。「チャンス・フェイバーズ・ザ・プリペアド・マインド」。チャンスが準備された心に降り立つ。いかに準備が大切か、また、「プリペアド・マインド」、準備された心がなければチャンスは活かされない、ということでもあると思います。流通改革、消費税は、業界にとって、目の前の大変重要な課題だと思います。今回のセミナーが、参加者全員の「プリペアド・マインド」醸成につながることを願い、開講の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。